

アンケートに見る
「化粧」「ファッション」と「自分らしさ」
～首都圏女性 241 人の郵送調査による～

主な調査結果

- ・ 40 代以上は「ファッション」より「化粧」で「自己表現」
- ・ 20 代は「化粧」より「ファッション」で「自己表現」
- ・ 「現在」より「これから」に注目したい「自分らしさ」

1996

ポーラ文化研究所
高谷 村澤

1. はじめに

女性のもつおしゃれ観、化粧意識の中心が「美」というある決まった枠組み、一つの尺度を基準とするものから「魅力」というよりゆるやかで多様な価値のあり方へ変化してきている。またそれは、共通の基準としての「美」から、より自分らしい「魅力」のありかたを自分自身で作り上げていくこと、その欲求が高まっていくことを意味している。

その鍵となるのが「自分らしさ」だ。そこで女性のファッションやおしゃれ観、流行と「自分らしさ」との関係を探る第一歩として20代と40代以上の2つの年代の女性を対象に調査を実施した。

このレポートではそのなかから「化粧」と「ファッション」に着目して「自分らしさ」との距離を探った。

2. 調査の基本設計

調査対象：首都圏在住の20代および40代女性

調査時期：95年11～12月

調査方法：アンケート用紙郵送

対象人数：400人（回答者241人 回答率60.3%）

年齢区分

20代 126人（未婚78人 既婚44人 その他4人）

40代以上 115人（既婚105人 その他10人）

3. 主な調査内容と結果

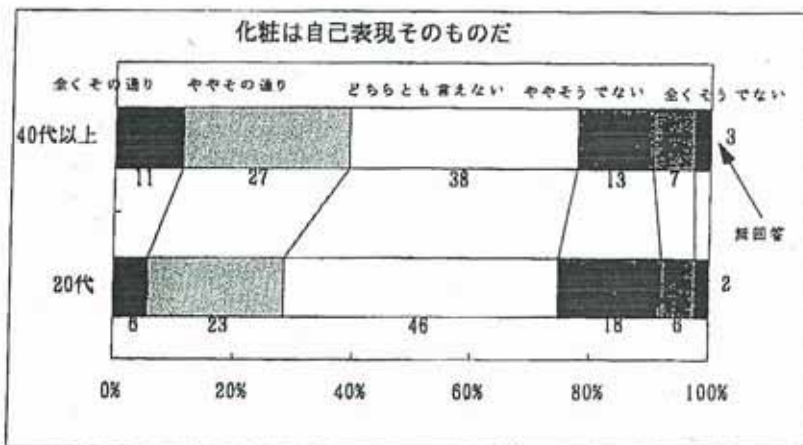
(1) 「化粧」と「自分らしさ」

まずは「化粧」と「自分」の位置付けを「自己表現」と「他人との関係」から見よう。

・自分にとって化粧は自己表現そのものか？

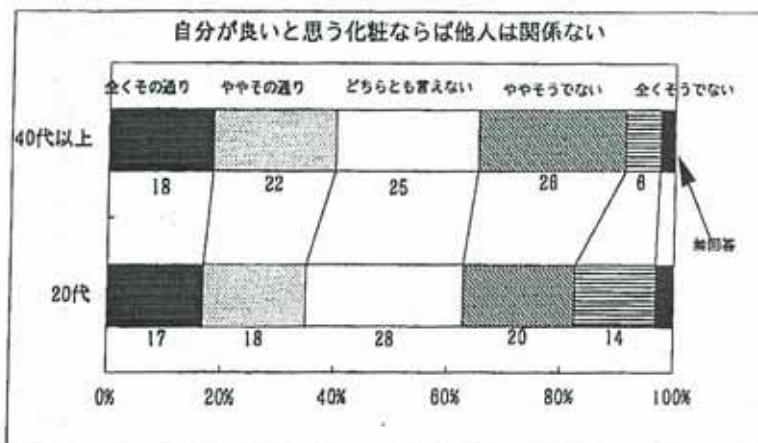
「全くその通り」から「全くそうでない」まで5段階で「化粧は自己表現そのものか」をたずねた。最も多いのは40代以上、20代ともに「どちらとも言えない」となり、20代では46%に達する。

「全くその通り」と「ややその通り」を合わせた「化粧は自己表現」は20代で29%だが40代以上では38%と10%ほど上回っている。20代は「ややそうでない」と「全くそうでない」を合わせた「否定派」も24%と多い。20代をさらに属性別に見るとフルタイム勤務の女性に「否定派」が多い。



・自分が良いと思う化粧なら他人は関係ないか？

「全くその通り」と「ややその通り」を合わせた「関係ない」とする女性は40代以上で40%、20代で35%と、40代以上の女性の方が「関係ない」と考えている。逆に「全くそうでない」と「ややそうでない」を合わせた「関係ある」と答えた女性は40代以上が32%、20代は34%でほぼ同じ結果となった。ただし20代で「全くそうでない」と考える人が14%とかなり多いのが目立つ。



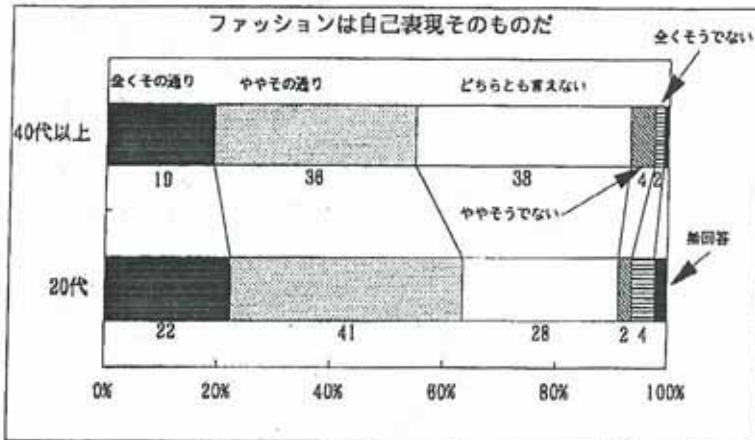
(2) 「ファッション」と「自分らしさ」

つぎに「ファッション」と「自分」に関する結果を見ることにする。

・自分にとってファッションは自己表現そのものか？

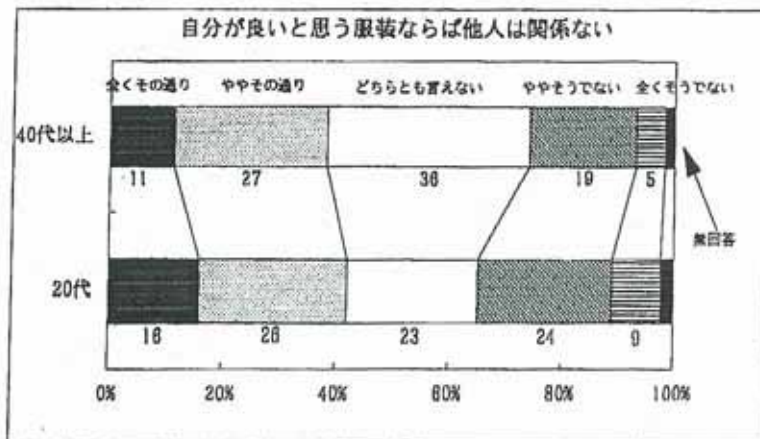
40代以上、20代のどちらにも「全くそうでない」、「ややそうでない」を合わせた「否定派」は少なく8%程度に過ぎない。

「全くその通り」、「ややその通り」を合わせた「ファッションは自己表現」との答えは20代で63%、40代以上で55%と20代女性の方が多く、どちらも半数を超えている。



・自分が良いと思う服装なら他人は関係ないか？

20代と40代以上でもっとも差が大きいのが「どちらとも言えない」で、40代以上で38%、20代で23%と一割以上の開きがある。これは20代女性の答えが両端に別れているためだと言える。20代で「全くその通り」と「ややその通り」を合わせた「関係ない」が42%、「全くそうでない」と「ややそうでない」を合わせた「関係ある」との答えは33%となる。また40代以上では「関係ない」は38%いるが、「関係ある」は24%と少ない。



(3) 自分らしさの表現〈現在〉〈これから〉

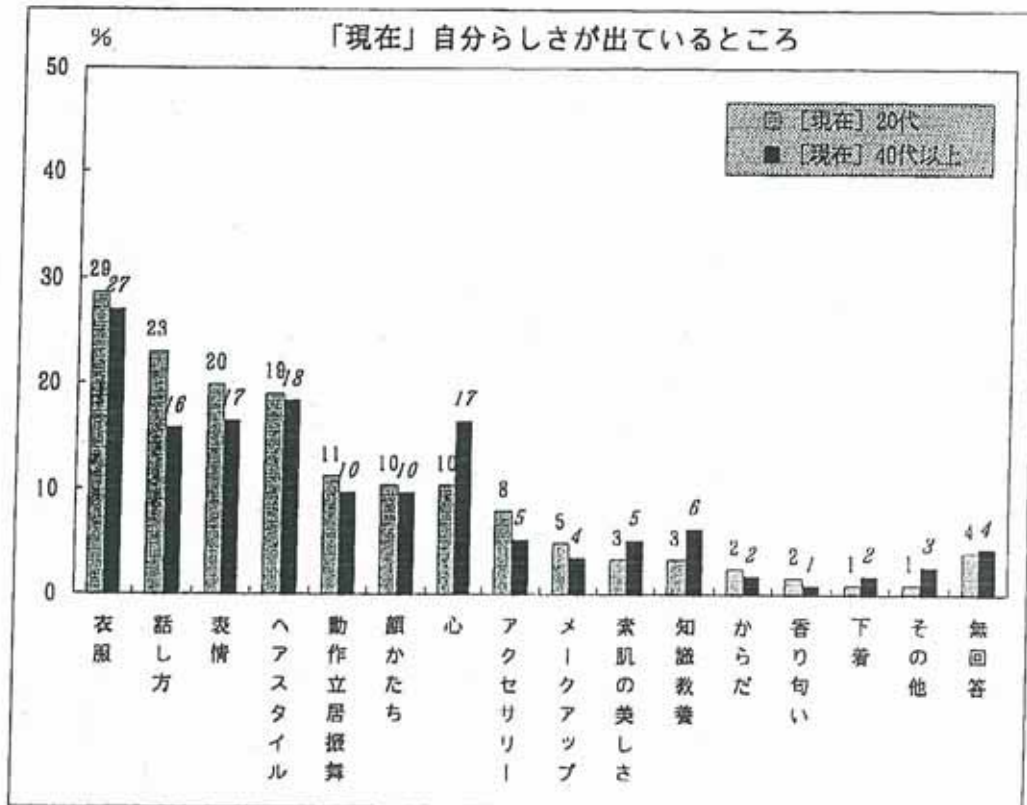
では女性は「自分らしさ」がどんなところに表れていると考えているのだろうか。「衣服」「ヘアスタイル」といった外見から「心」などの内面、「からだ」に関連したもまで15の選択肢からあてはまるものをいくつかでも答えてもらった。

・「現在」自分らしさがでているのは？

20代、40代以上ともに「衣服」との答えがもっとも多いが30%すら達していない。上位の項目もおおむね共通だが、40代以上で17%の「心」が20代では10%にすぎない。

全般的に数値が低くはっきりと「自分らしさ」が出ている項目は出てこない。

「現在」自分らしさがでているのは（上位）			
	20代		40代以上
1	衣服 20%		衣服 27%
2	話し方 23%		ヘアスタイル 18%
3	表情 20%		心 17%
4	ヘアスタイル 19%		表情 17%
5	動作立居振舞 11%		話し方 16%



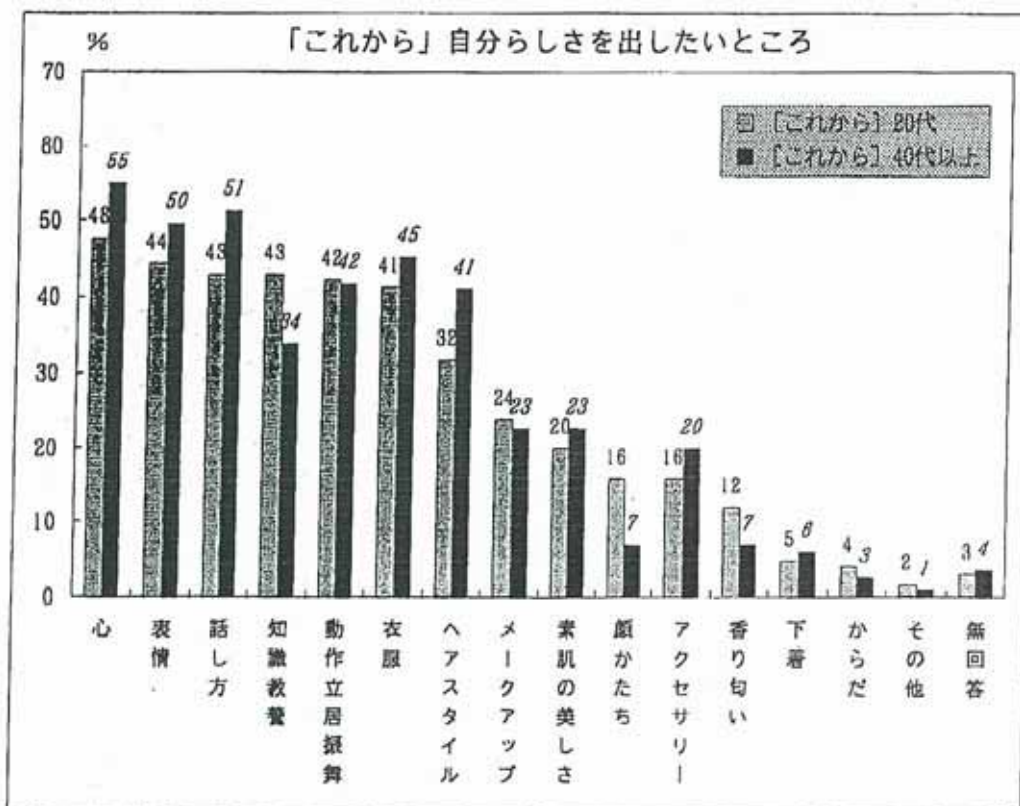
・「これから」自分らしさをだしたいところは？

では「これから」ではどうなるだろうか。数値は全般的に高い。40%を超えるものが20代、40代以上ともに6項目と多い。「心」「表情」「話し方」「衣服」「知識教養」が上位となる。「現在」で低かったもので目立つものは「素肌の美しさ」「メイクアップ」「知識教養」といえる。

50%を超えたものが3項目あるなど、40代以上の女性の〈これから〉の「自分らしさ」へのこだわりが全般に高いことがわかる。

20代は「知識教養」「顔かたち」「香り・匂い」で40代以上を上回っている。特に「顔・かたち」は40代以上の7%に対して16%が選んでいる。

	20代	40代以上
1	心 48%	心 55%
2	表情 44%	話し方 51%
3	話し方 43%	表情 50%
4	知識教養 43%	衣服 45%
5	動作立居振舞 42%	動作立居振舞 42%
6	衣服 41%	ヘアスタイル 41%

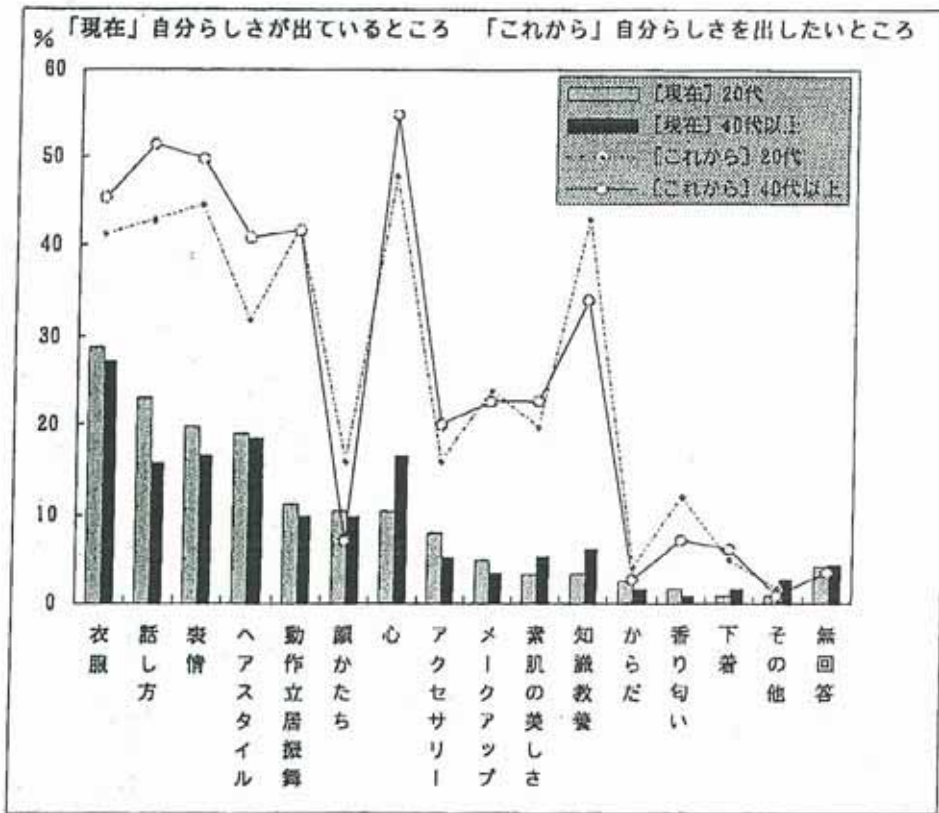


・自分らしさの「現在」と「これから」

「現在」と「これから」をひとつのグラフにまとめてみた。

まずほとんどすべての項目で「これから」が「現在」を大きく上回っていることがわかる。

また「現在」では20代が、「これから」では40代が全般的に高い傾向がある。



4. まとめ

ポーラ文化研究所で1994年に実施した調査「おしゃれ白書」(首都圏女性1050人対象)では「化粧する理由」をたずねている。結果は20代以下の女性にとっての最大の理由は「美しくみせたい」であり、40代以上は「社会的エチケット」が多いというものであった。

また今回の調査でたずねた「素顔よりメイクアップした顔のほうが自分らしい」で「はい」と答えた女性は20代で45%、40代以上で64%であった。さらに20代女性の約8割が「メイクアップすることで多種の自分が演出できる」と答えている。

これらの結果と、このレポート前半の「化粧は自己表現」などを合わせて見ると20代、40代以上の女性のそれぞれの化粧観の違いが浮かび上がる。

つまり化粧、とくにメイクアップは20代の女性にとっては「美しさ」を得るために「素顔」＝「自分らしい顔」の上につけるいくつもの「仮面」という位置付けになる。「仮面」である以上、つけたくないときも存在し、事実「おしゃれ白書」では「メイクをしたくない時でもする」と答えた女性が20代後半から30代の未婚で半数近くにもものぼっていた。

逆に40代以上の女性にとっては「化粧はエチケット」であり「メイクした顔」＝「自分らしい顔」と考えている。化粧は「仮面」ではなく「自分の顔」そのものといえるまでになじんだものと言えよう。

一方「ファッション」に関しては、20代の女性の方が「自分らしさ」との結び付きが高い結果となった。「化粧」よりもさらに容易に取り替えることのできる「ファッション」の方が、固まっていない「自分らしさ」を表現しやすいからであろうか。

さらに「自分らしさ」を表わす項目を「現在」と「これから」で比べてみると、ほとんどすべての項目で「これから」が上回り、今後「自分らしさ」をより表現したい女性が年代を問わず多く存在していることが明らかになった。

「ファッション」よりさらに内面に近い存在である「化粧」が今後「自分らしさ」の中で果たす役割は大きくなっていくだろう。

